

龍巖淵のお膳りゅうがんぶち

平成八年九月五日号

鷹岡本町から滝戸へ行く途中、龍巖橋という橋を渡ります。その橋の下で岩肌をのぞかせる場所が「龍巖淵」。まさに龍が通り過ぎた後のような景觀が広がります。

今回は、龍巖淵のそばにお住まいの鈴木さんから、龍神にまつわるお話を伺いました。

昔、滝戸村の名主の家で婚礼がありました。ところが、必要な百人前の膳せんわんがどうしてもそろいません。困った名主は、下男に探してくるように言いました。そこで、下男は、毎

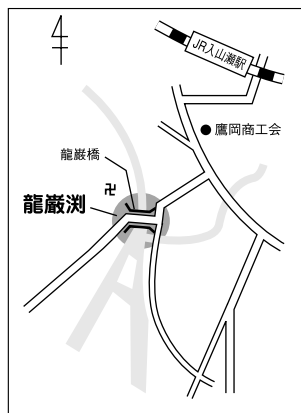
日あたりの村々を探し回りましたが、

どうしても見つかりません。下男は疲

れ切つて龍巖淵の岩の上にしやがみ込み、「やれやれ、婚礼は明日だというのに膳せんが見つからない」と、途方に暮れていました。

すると、「これこれ、そこで何をしておる」という声がしたのです。後ろを見ると、白いひげのおじいさんが立っていました。

下男が「実は、明日の婚礼に使う百人前の膳せんがなくて困っています」と言うと、おじいさんは「そうか、それでは明日の朝早く、この岩の上に立って願い事を言え。わしは、このふちの龍神じゃ」と言ったかと思うと、



スーッと消えてしまいました。

下男は、次の朝、岩の上で「龍神様、どうか百人前の膳と椀を貸してください」と言いました。すると不思議なことに、水の上に百人前の膳と椀がプカプカと浮いてきたのです。そのおかげで無事に婚札を済ますことができました。翌日、下男は膳椀を丁寧にふき、お礼を言つてふちの中へ返しました。

その後、その話を聞いた村人たちも借りる



▶ 龍巖淵

ようになりました。しかし、ある年、隣村の名主の家で法事があり、龍神様から膳椀を借りたのですが、返すときになってみると、なぜか一つ足りません。そして、「一つぐらいわからないだろう」と、黙つてふちの中へ返してしまいました。

ところが、それからというものの、ほかの人がいくら願いを言つても、願いがかなうことはなかったということです。

鈴木幹枝さん（岩本）

龍巖淵は、「立願淵」とも書きます。きつと、龍神様が願いをかなえてくれることから、そのように書くのかもしれないね。

今では、めっきり水量が減ってしまいました。その昔は、大雨が降ると、激しい濁流が橋のすぐ下の高さまで達するほどだったんですよ。その勢いといい、その轟音ごうおんといい、まさに龍が駆け抜けていくようでしたね。